

令和 6 年度第 1 回 青梅市工業振興対策審議会 会議録

日 時 令和 6 年 1 0 月 1 7 日（木）午前 1 0 時 2 0 分開始

場 所 青梅市役所議会棟 3 階 第 3 委員会室

出席者

委 員（敬称略）

林 英夫、久保 安宏、吉澤 清志、岩田 雅行

渋谷 貴子、樋口 明久、小沢 昌治、池田 政教

事務局

渡部地域経済部長、並木商工業振興課長

加納工業振興係長、森田商業労政係長、星野主任

欠席者 なし

次 第

- 1 開会
- 2 副市長挨拶
- 3 会長開会および開議宣言
- 4 諮問
- 5 協議事項「青梅市商・工業振興プランの一部改訂について」
- 6 その他
- 7 会長閉会および閉議宣言

発言要旨

5 協議事項「青梅市商・工業振興プランの一部改訂について」

（成果指標目標値：製造品出荷額等）

委 員 「製造品出荷額等」の新目標値は、青梅市内製造業に携わる委員の意見を重視して検討したい。

事務局 補足として、「製造品出荷額等」の新目標値は、想定インフレ率および半導体の業界団体が公表した試算等を考慮して算出したものである。

委 員 半導体関連の伸びを考慮すると、新目標値として、② 2, 0 8 4 億円を設定するということで良いのではないか。

委 員 新目標値② 2, 0 8 4 億円の案で異議なし。

（成果指標目標値：創業者数）

委員 青梅商工会議所においても創業者支援に取り組んでいる。現状の創業者は商業分野が多い。工業分野においても、市の創業者支援制度と併せて、より一層の支援を推進したい。

委員 新目標値 60 件の案で異議なし。

(成果指標目標値・従業員数)

委員 中小企業を取り巻く状況は厳しい。国や都道府県規模で所得が上がっているからそれでいいという話ではない。市町村レベルの施策が重要になってくる。

委員 地方に比べたら、青梅市は東京に位置し、幸い、まだ人はいると感じている。しかし、「増えない、現状維持でも大変だ」という認識だ。

委員 新目標値 24,000 人の案で意義なし。

(成果指標目標値・市東部鉄道駅乗降客数)

委員 (学)日本航空学園の避難という要因は大きい。生徒、学生、先生方が来られたことは、青梅市にとって間違いなくプラス要因だ。是非とも鉄道利用を期待したい。

委員 上振れも期待できる状況だ。

委員 新目標値 26,000 人／日の案で異議なし。

(施策の骨子案)

委員 青梅市の事業者が今後も伸びていくには「自社ブランディング」の視点が重要。自社に既に存在しているものに価値を与えるということ。例えば、自社のサービスなど無形の資産で収益化することができれば、設備投資をせずに利益を生むことができる。

委員 一理ある。投資をせずに発想だけで出来ることもあるかもしれない。企業のブランディングによって、青梅をもっと多くの人に知ってもらうことができる。

委員 設備投資がいらないという視点であれば、「SDGs」に目を向けるのはいかがか。「SDGsを表明している企業」という評価は、中小企業にとって間違いなく有利に働く。そして、ソフトだけでやれることが数多くある。これは、国際的な取り組みであるから、青梅市が推進する意味はある。

委員 「マイSDGs」として、従業員個人でも取り組むことができる。私は、ペットボトル飲料を購入しないことを心がけている。

委員 他の自治体で、「SDGsのステッカー」を配布し、第三者的な

証明として、事業所への掲示を促すという事業を実施している例がある。SDGsに貢献している企業という証明があれば、受発注の際にも有利という声もあるから、商工会議所とも連携して、ぜひ実施してはいかがか。

委員 環境に関するセミナーを開催しても、参加者を確保するのが難しい。是非、市が推進に取り組んでもらいたい。加えて、環境という視点では、紙の資料を減らしたい。委員それぞれ、タブレット端末の活用を検討したい。事務局の資料共有には、工夫をお願いすることになる。

委員 一理ある。

事務局 市では、「職員エコアクション」を実施しており、職員一人ひとりの意識を高めている。また、環境基本計画の改訂に取り組んでおり、温室効果ガスの削減を目指しているところである。これらは、重要な視点であると認識している。「SDGsステッカー」の案は、プランに組み込む方向で検討する。また、紙の資料を減らすという点は、次回の審議会から実行する。

委員 施策の骨子については、事務局案で異議なし。

事務局 今後、施策の骨子に対応する各施策の詳細について、事務局案を作成し、お示しさせていただく。

6 その他

委員 審議会のあり方に関わるような話であるが、ここで出た意見の実効性を担保しなければならない。プランは計画倒れで終わらないことが重要である。事務局には、青梅市における商工業振興の課題や審議の進捗状況を良く整理し、「何をどこまで進めていて、これから何をしなければいけないのか」ということが分かりやすくなるような運営に努めてもらいたい。この審議会がPDCAを回すために必要な整理の場である。

委員 一理ある。また、委員側としても、市と一緒に活動しているということをもっと周知する努力が必要である。青梅市の総合長期計画を多くの市内商工業関係者に見てもらう必要があると感じている。

事務局 実効性は必須である。また、即効性を伴う必要がある。本日出た意見はプランに組み込む方向で検討させていただく。また、市の

取り組みに関する周知を積極的に実施していく。

委員 これからは、生成ＡＩの利活用が求められる。プログラミング、文書作成、デザイン等、多くの分野で日々凄まじい速度で進歩している。使用感としては、事業計画の作文、イメージ画像の作成においては、非常に有用である。

委員 生成ＡＩの進歩に伴って、本当に人間がやらなければならない仕事というのは、よりシビアな部分になってくる。また、そういった作業のみに人間が集中できるというメリットが大きい。この審議会としてもよく検討すべき事項である。